

会議名	令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校に関する説明会
開催日時	令和4年6月23日（木）午後7時から8時まで
場 所	川島町立西中学校体育館
参加者	5人（傍聴者含む）
議 題	(1) 令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校に関する説明 (2) 説明に対する質疑
出席者	教育長 中村正宏 教育総務課長 鈴木克久 西中学校長 佐藤香織 学校統合・学校教育指導幹 関口敬氏 学校統合推進室長 坪内嘉夫 事務局職員 松本竹司、木村建太
配布資料	資料 令和7年度つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校
<p>説明会の内容・概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 出席者紹介 4 説明 5 説明に対する質疑 6 閉会 <p>《教育長あいさつ》省略</p> <p>《資料により説明》省略</p>	

《質疑・応答》

質問 川島中学校区の一体型小中一貫教育校では、小学校5・6年生が希望制で部活動に参加できるとのことですが、連携・交流を推進するという西中学校区ではどのようになるのか。

また、小中一貫教育の場合、小学校5・6年生も中学生と同様に定期テストを行うのか。

回答 西中学校区では、西中学校、中山小学校、伊草小学校、それぞれ施設が離れているため、現実的に、一体型小中一貫教育校のように頻繁な部活動への参加は難しいと思いますが、どの程度、実施すれば教育上の効果が上がるのか、回数などについて検討します。

また、6月から小中一貫教育推進協議会を立ち上げており、その中の専門部会で小中一貫教育に向けた検討を開始しましたので、部活動、行事、交流会等について順次計画を立てていきます。

定期テストについては、視察を行った春日部市の江戸川小中学校では、中学校のように、小学校5・6年生も中間・期末テストを実施しているとのことでした。現在、川島町では小学校5・6年生は単元テストを実施しておりますが、小中一貫教育に向けた検討の中で、テストについても、子どもの学習に効果的な方法を検討していきます。

質問 今回、小中一貫教育校開校に向けた説明を聞きましたが、実際にどうなるのかをイメージすることはとても難しいです。中山小学校、伊草小学校、西中学校は施設分離型での計画とのことですが、この3校の連携・交流のために先生方が小・中学校間を行き来することにメリットがあるのか。

また、伊草小学校では卒業後、川島中学校と西中学校に分かれて進学するため、子どもたちも高学年になると、別々の中学校に進学することを意識し、不安を抱えながら学習している状況です。川島中学校と西中学校と連携・交流を進めながら、小中一貫教育を推進するとのことですが、それぞれ校則等も異なり、現実には難しいと思います。

少子化が進む中、町職員は、もっと現場を知り、人口減少や子どもが減少している原因をよく考えていただきたいと思います。

回答 現在、伊草小学校の子どもたちは、卒業後、川島中学校と西中学校に分かれて進学します。このため、川島中学校地内に設置する予定の一体型小中一貫教育校へ進学する子どもたちは、つばさの友だちと川島中学校の先輩たちの集団の中へ、後から仲間入りすることとなり、心配されるのは当然だと思います。

伊草小学校の児童は、中山小学校、西中学校だけでなく、つばさ南小学校やつばさ北小学校の統合校、川島中学校とも連携・交流を図ることができます。

このことで伊草小学校の児童は、多くの小学校児童や中学生生徒と知り合う機会ができます。さらに、川島中学校の先生と西中学校の先生が、伊草小学校に乗入れ授業に来ることで、多様な人間関係の中、さまざまな経験をし、多様な考え方、見方にたくさん触れることができるという点では、伊草小学校の子どもたちは、他の小学校の子どもたちよりも恵まれた環境にあると言えます。

西中学校開校時、伊草小学校の児童が川島中学校と西中学校に分かれて進学すると決定したことは、とても難しい判断だったと思います。しかし、生徒数、学級数を鑑みると、現在でも両校ともに良いバランスになっているのは良かったと考えております。伊草小学校の子どもが、別々の中学校に通学することをプラスと捉えていただければと思います。

少子化問題は、川島町も含め、全国的な問題です。いただいた意見も参考に、今後の町としての対応を考えていきたいと思っております。

教育委員会では、今日の子どもたちに関わる様々な課題に対応するためには、小学校、中学校が別々に子どもたちを指導するのではなく、9年間の見通しの中で小・中学校の教員たちが一緒になって、きめ細やかに子どもたちを指導していくことが、何より大切であると考えております。

今回説明した内容は決定事項ではありませんが、皆様からご意見を頂いた上で、検討を重ねながら、小中一貫教育を進めていきたいと思っております。

質問 令和17年度を目途としている統合小中一貫教育校は新設するのか。

回答 令和17年度を目途とする統合小中一貫教育校の建設場所は未定です。

川島中学校と西中学校の校舎等は、ともに鉄筋コンクリート造で、一般的に40年から50年が耐用年数とされています。そのため、20年に一度は大規模改造が必要とされています。既存施設の改修にも多額の費用がかかるため、1校に集約し、新しい校舎を建設するほうが、財政的にはよいという考えもあります。このような考えから、町では公共施設個別施設計画を策定しておりますが、場所だけでなく整備方法についても、今後、検討していきます。

質問 令和17年度を目途とする小中一貫教育校の建設地については、公共バス路線やインターチェンジが近い場所で検討していただきたいと思っております。

回答 今後、教育委員会だけでなく、町民の皆様の意向を踏まえ、町全体で令和17年度に向けた検討を進めていきたいと思っております。

《課長あいさつ》省略

作成者	教育総務課 学校教育グループ 木村 建太
-----	----------------------